

第48回 ベルリン国際映画祭正式出品作品

純粹すぎるから、危ない。



SADA

原作・脚本／西澤裕子(中央公論社刊) 大林宣彦監督作品

黒木 瞳・椎名結平 船田久作 ベンガル 石橋蓮司 春海美代子 根岸季衣 池内万作 坂上二郎 井川比佐志 三木のり平 小林桂樹・片岡鶴太郎

製作／鍋島壽夫 監督／大林宣彦 プロデューサー／大林恭子 撮影／坂本典隆 美術／竹内公一 照明／西衣灯光 録音／北村峰晴 編集／大林宣彦・音楽／學草太郎 製作／松竹株式会社 製作協力／PSC 配給／松竹株式会社



解説

<阿部定事件>。昭和11年(1936年)5月19日、世間を騒然とさせたこの事件と立役者である女性・定は、究極の性愛のシンボルとして、現代まで語り継がれている。映画「SADA」は、今一度「阿部定事件」に注目しつつ、事件そのものよりも、むしろ定という一人の女性とその半生にスポットを当て、とりわけ、少女時代、ハンセン氏病の青年・岡田との間に芽生えたプラトニックな愛を忘れることの出来ない定のトラウマと、それゆえの純粋すぎるほどの性愛への執着を浮き彫りにした、要するに“定”についての物語である。

原作・脚本は、定に関する資料を丹念に探し集め、そこから奔放な想像力をもって知られざる定の内面に踏み込み、新たな“定像”を作り上げていった西澤裕子。その根底にある「定には、プラトニックな愛で結ばれたハンセン氏病の恋人がいた」という部分に興味を引かれた大林宣彦監督が、撮影台本を潤色しメガフォンを取った。

そして、この映画のキーポイントは、何と云っても、定のキャラクター的魅力である。難役とも言える定に扮した黒木瞳は、想像力をかき立てる大林流映像表現のひとつである「見えないエロティシズム」を見事に体現し、女優としての新境地を切り開いた。

「映面的虚溝とイメージーションの世界で、花も実もある絵空事、根も葉もある嘘八百の“技”を楽しみながら、その中に、花や実、根や葉といった“真実”を見出してもらえれば幸いです。」それが大林監督がこの映画に込めた思いであり、映画「SADA」とは何か?の答えでもある。

物語

1905年東京・神田の畳屋の末っ子として生まれた定は、利発で勝ち気で、雨の日はひどく嫌いな子供だった。

14歳の夏。定は、慶応ボーイの斉藤に無理矢理、処女を奪われる。ショックと痛みで泣きじゃくる定。そこに、医学生・岡田征が現れ、定をやさしく介抱してくれた。岡田がくれたドーナツを握りしめ、その胸の中で眠る定。彼に初めての恋心を寄せる定であったが、ハンセン氏病に冒されていた岡田は、何も知らない定に医療ナイフとそれで抉る真似をした目には見えぬ心を与え、永遠の別れを告げる。やがて、定は芸者置屋の門をくぐる。

時は流れ、一人前の娼婦になった定は、名古屋市議会議員の立花佐之助に出会う。それなりに幸せな生活を手にする定だが、岡田がハンセン氏病のため、どこかの島に送られたことを知り、愕然としてしまう。

31歳になった定は、立花の勧めで料亭「きく本」に見習いに入り、店の主人・竜蔵と出会う。お互いに魅かれ合い結ばれるが、竜蔵の妻よしに関係が知れ、店を飛び出す。彼女を追いかける竜蔵。二人は情事にふけり、もはや定は竜蔵なしでは生きられないほどであった。そして、36年5月17日の夜。定は竜蔵の頸を自分の腰紐で締めて死に至らしめ彼の下腹部をあのナイフで切断すると、それを大切に紙に包んで帯の間に挿み、翌早朝一人旅館を後にしたのである…。

「阿部 定ってご存知ですか」

「ええ」

「誰も知らないことですが、実は此処に阿部 定がほんとうに愛した慶応の医学生だった男性がいます。会ってご覧になりますか。彼はお会いしたいといっていますが」

この会話は遠い昔、他の作品の取材のため訪れた瀬戸内海の或る島にあるハンセン氏病の病院長室での会話です。

わたしの中のSADA

死にたいほど愛する人の存在を持ちながら、その男性には会うことすらかなわない。娼婦になった定が娼婦になったが故に更に強く医学生との愛が偶像化されていく中で、吉蔵(竜蔵)という女体を掴まえて離さない下半身を持った別の存在に出逢い、限りなく美しい愛と、ときに見苦しいまでの、肉欲への執着へ相克に苦しみ、吉蔵だけでなく、自分自身の中にひそむ抵抗出来得ない動物的な本能をも憎んだ定が無意識のうちにあの犯行に及ぶ。これが、わたしの描きたかった「SADA」です。

大林宣彦氏が出来上がっていた脚本に「大乗りです」と頷いて下さいました。始めてのお付き合いですが、どうぞ撮ってください。わくわくした期待もっています。どうぞ皆様も作者のわたしと同じ様に胸踊らせる期待で映画をご覧になって下さい。

西澤裕子

キャスト

阿部 定/黒木瞳・岡田 征/椎名桔平

滝口/嶋田久作 立花佐之助/ベンガル

信吉/石橋蓮司 阿部いと/赤座美代子 喜久木よし/根岸季衣 斉藤敏彦/池内万作 宮崎利三郎/坂上二郎 予審判事/井川比佐志 阿部卓造/三木のり平

裁判官/小林桂樹・喜久木竜蔵/片岡鶴太郎

スタッフ

原作・脚本/西澤裕子(中央公論社刊) 大林宣彦監督作品

製作/鍋島壽夫 監督/大林宣彦 プロデューサー/大林恭子 撮影/坂本典隆 美術/竹内公一 照明/西表灯光 録音/北村峰崎 編集/大林宣彦 音楽/學草太郎 製作/松竹株式会社 製作協力/PSC 配給/松竹株式会社



SADA

4月11日(土)ロードショー

特別鑑賞券 一般1500円/ペア券2800円発売中

有楽町・マリオン新館5F
丸の内松竹
03(3214)3366

地下鉄東銀座駅下車・駐車場完備
松竹セントラル3
03(5550)1631

紀伊國屋ビルうら
新宿松竹
03(3356)4881

道玄坂109階 サ・プライム6F
渋谷松竹セントラル
03(3770)1990

六区映画街つきあたり
浅草松竹
03(3841)2646

上野駅不忍口前・西郷さん銅像下
上野松竹
03(3831)3136

近鉄デパート並び・西友前
吉祥寺松竹
0422(20)9750